

高等学 校

平成 2 2 年度

教育研究員研究報告書

地理歴史

東京都教育委員会

はじめに

東京都教育委員会は、平成22年度から新たに幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教員を対象に教育研究員を設置し、平成17年度まで50期にわたって行ってきた教育研究員事業を6年ぶりに復活させました。この事業は、教育研究活動の中核となる教員を養成することによって、東京都全体の教育の質を向上させることを目的としています。各教育研究員には1年間の研究活動を通して組織的な研究活動の在り方を身に付け、これからの東京都の教育研究活動の推進者となることが期待されています。

平成20年3月に告示された幼稚園・小学校・中学校学習指導要領に続き、平成21年3月に高等学校学習指導要領が告示され、全ての校種が新しい学習指導要領の本格実施あるいは本格実施に向けての移行期間に入りました。このことを受けて、平成22年度の教育研究員の共通テーマは「新学習指導要領に対応した授業の在り方について」とし、研究の柱が改訂された学習指導要領であることを明確にしました。また、今回の学習指導要領改訂の大きなポイントの一つである「言語活動の充実」については、全ての校種・部会の研究内容の中で取り組むこととしました。

これまで都教育委員会は、都立高校教育の充実・発展のために「生徒による授業評価」を活用した授業改善の促進や、進学指導重点校等での進学指導に関する協議会の開催など、生徒の学力を向上させるための取組を行ってきました。また、平成22年度からは、進学指導のマネージメントの定着を図る目的で、進学校における外部機関による進学指導診断を実施したり、学力向上に向けて実践的な研究を行う学校を指定し、高校入試結果の分析、学力向上推進プランの作成、学力調査問題の開発・実施・分析を通して学習指導の改善と充実を図ったりしてきました。

そこで、本年度高等学校の各部会においては、全校にわたる共通テーマに加え、「確かな学力の向上を図るための授業等の工夫についての実践研究」を高等学校全体のテーマとして設け、各部会において確かな学力を定義づけた上で、それぞれの研究主題を設定し、研究開発に取り組んできました。

この1年間、高等学校の全15部会、70名の教育研究員が、国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術（音楽）、外国語、家庭、情報、農業、工業、商業、特別活動及び総合的な学習の時間の各教科等について、研究主題に基づいて研究を行い、協議を重ね、検証した内容を本報告書にまとめました。

各学校におかれましては、本報告書を有効に活用し、学力向上に向けた教科等の指導方法・内容の改善と充実に取り組んでいただくようお願いします。

平成23年3月

指導部高等学校教育指導課長

宮本 久也

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	4
V	研究の内容	5
VI	研究の成果	16
VII	今後の課題	16

研究主題	「国際社会で主体的に生きるために必要な力を育む授業等の工夫」
-------------	---------------------------------------

I 研究主題設定の理由

グローバル化が進む国際社会の中で、日本国民に求められていることは、自ら課題を発見し、主体的に課題解決に向けて取り組み、自らの意見を述べていく姿勢である。この姿勢の育成を図るために、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深めさせ、日本人としてのアイデンティティを確立するとともに、他者を理解し尊重する態度と、多様な生活や文化に対して、多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を養うことが必要である。

本部会では、新学習指導要領解説に示されているように「国際的な相互依存が進む中で、自ら国際社会の形成者であること、また、自らがよって立つ平和で民主的な国家・社会を維持・発展させることについての日本国民として必要な自覚と資質を養うこと」が地理歴史科の最終目標であることを踏まえ、研究主題を、「国際社会で主体的に生きるために必要な力を育む授業等の工夫」と設定した。

また、新学習指導要領解説では、地理歴史科の改訂の具体的事項を、「我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を一層深めさせるよう科目間の関連を重視するとともに、各科目で専門的な知識、概念や技能を習得させ、それらを活用できるよう改善を図る。その際、地図を活用した学習を一層重視する」としている。そこで本部会では、「科目間の関連の重視」「習得した知識・技能等の活用」「地図や資料等を活用した学習の重視」に取り組むとともに、教育研究員のサブテーマである「言語活動の充実」を図ることを重視した。

地理歴史科には、社会的事象について多面的・多角的に考察し、自らの考えをまとめ、発言していく力を育むことが求められている。歴史的な思考力や地理的な見方・考え方を身に付けさせ、その力を様々な場面で活用させることによって、国際社会の形成者として必要な思考力・判断力・表現力等を育むことができる。本部会では、「社会的事象に関心をもち、自ら主題を設定し、探究する態度」「社会的事象を理解するために必要な基礎的・基本的な知識・技能とその活用」「現代社会の諸課題を、多面的・多角的に考察するために必要な思考力・判断力」「自らの考えを表現する力」を確かな学力とし、授業等の工夫を通して育成していく。

II 研究の視点

OECD（経済協力開発機構）のPISA調査など各種の調査からは、我が国の児童生徒の学力について、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題があると指摘されている。また各教育研究員が勤務している学校において、授業等における生徒の取組やワークシートへの記入内容等から生徒を観察すると、社会的事象に関する興味・関心が希薄であるとともに、地理歴史における総合的な知識・理解が不足していると考えられる。また、社会的事象について、史資料等から歴史的背景を踏まえて考察したり、地理的条件と関連付けて考察したりすることや、考察した内容を自分の意見とし

てまとめたり、発表したりする力が十分ではない。

そこで、それぞれの学校の生徒の実態を踏まえ、「社会的事象への興味・関心を高め、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるための教材や授業等の工夫」「資料等の活用方法の習得と、科目間の関連を重視した授業等の工夫」「習得した知識・技能を活用するとともに、言語活動の充実を図り、自分の考えをまとめ発表させる授業等の工夫」の3点を視点としての実践的な研究を実施した。

Ⅲ 研究の仮説

以下の3点の仮説を立てて授業等の工夫を行い、検証した。

- 1 実物資料や景観写真などを通して、社会的事象への興味・関心を高めるとともに、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることによって、現代社会への理解を深め、自ら課題を設定し、探究する態度を養うことができる。
- 2 地図や年表等の諸資料を活用して、歴史的背景や地理的条件を関連付けて社会的事象について多面的・多角的に考察させることによって、現代社会の諸課題の解決に向けた思考力・判断力を養うことができる。
- 3 習得した知識・技能や年表・地図等の諸資料の活用を通して、自分の考えをまとめ発表させたり、ワークシートなどでまとめさせたりすることによって、言語活動の充実を図り、自分の考えを論理的に述べるなどの表現力を育むことができる。

Ⅳ 研究の方法

1 具体的方策

以下の3点を取り入れた検証授業を行い、その後、成果と課題をまとめた。

- (1) 実物資料を見せたり、触れさせたりすることを通して、生徒の興味・関心を高め、学習内容の理解を促進し、社会的事象についての理解を深めさせる。
- (2) 科目間の関連を重視し、年表の作成や地図の読図・作図などに取り組みせ、資料の作成と活用の方法を身に付けさせるとともに、それらを通して社会的事象について総合的に思考し、判断する力を養う。
- (3) 習得した知識・技能や資料等の活用を通して、主題に沿ってグループで話し合わせたり、自分の考えをまとめさせ意見を発表させたりして、言語活動の充実を図り、表現力を育む。

2 各科目における指導案の作成及び検証授業

3つの実践事例では、具体的方策で述べた3点を踏まえた指導案を作成し検証授業を行った。そして授業の振り返りによって、生徒の変容（授業中の様子、アンケート結果等）を分析し、以下の3点を中心に成果と課題をまとめた。

- (1) 社会的事象に対する生徒の興味・関心を高め、学習内容の理解を深めるとともに、自ら主題を設定し探究する態度を育むことができたか。
- (2) 資料等の活用や科目間の関連を意識した授業によって、学習内容について総合的な思考力・判断力を養うことができたか。
- (3) 習得した知識・技能や資料等の活用を通して、発表や論述などの言語活動の充実を図り、表現力を育むことができたか。

V 研究の内容

1 研究構想

全体テーマ **新学習指導要領に対応した授業の在り方について**

高校部会テーマ **確かな学力の向上を図るための授業等の工夫についての実践研究**

教科等の新学習指導要領のポイント

- ・ 科目間の関連を重視
- ・ 習得した知識・技能等の活用
- ・ 地図や資料等を活用した学習の一層の重視
- ・ 言語活動の充実

教科等における確かな学力とは

- ・ 社会的事象に関心をもち、自ら主題を設定し、探究する態度
- ・ 基礎的・基本的な知識・技能とその活用
- ・ 現代社会の諸課題を、多面的・多角的に考察するために必要な思考力・判断力
- ・ 自らの考えを表現する力

現状と課題

- <現状>** ・ 生徒は社会的事象に関する興味・関心が希薄であり、地理歴史における総合的な知識・理解が十分ではない。
- ・ 生徒は社会的事象について、史資料等から歴史的背景を踏まえたり、地理的条件を関連付けたりして考察することが苦手である。
- ・ 生徒は資料等を活用して自分の意見をまとめたり発表したりすることが苦手である。
- <課題>** ・ 社会的事象への興味・関心を高め、理解を深めさせるための教材や授業の工夫
- ・ 資料等の活用方法の習得や科目間の関連を重視した授業の工夫
- ・ 知識・技能の活用と言語活動の充実による、表現力を育むための授業の工夫

地理歴史 部会主題

国際社会で主体的に生きるために必要な力を育む授業等の工夫

仮 説

- ・ 実物資料や景観写真などを通して、社会的事象への興味・関心を高めるとともに、基礎的・基本的な知識・技能の習得により、自ら主題を設定し探究する態度を養うことができる。
- ・ 地図や年表等の諸資料を活用して、社会的事象を歴史的背景や地理的条件を関連付けて多面的・多角的に考察させることで、現代社会の諸課題の解決に向けた思考力・判断力を養うことができる。
- ・ 習得した知識・技能や諸資料を活用して自分の意見をまとめ、発表させるなど言語活動の充実を図ることによって、表現力を育むことができる。

具体的方策

- ・ 実物資料を見せたり、ICT機器を利用して景観写真などを見せたりすることで、生徒の興味・関心を高めるとともに、基礎的・基本的な内容を習得させることによって学習内容の理解を深める。
- ・ 科目間の関連を重視し、年表の作成や地図の読図・作図などを行わせ、総合的に思考し、判断する力を養う。
- ・ 習得した知識・技能や資料等を活用して、主題に沿ってグループで話し合わせたり、自分の意見を発表させたりまとめさせたりするなど言語活動の充実を図り、表現力を育む。

(1) 実践事例 I

科目名	世界史B	学 年	第1～4学年（選択）
-----	------	-----	------------

1 単元名、使用教材（教科書、副教材）

- (1) 単元名 (3) 諸地域世界の交流と再編 ア イスラーム世界の形成と拡大
 (2) 使用教材 『改訂版高等学校世界史B 人、暮らしがあふれる歴史』第一学習社
 『世界史のミュージアム』とうほう・自作プリント資料

2 単元の指導目標

- (1) アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。
 (2) 実物資料を活用することを通して、異文化への興味・関心を高めるとともに、イスラームの特徴とアラブ世界の風土とを関連付けて理解させる。
 (3) 地理との関連を図り、地図の読み取りを通して、イスラーム世界の形成と発展を地理的条件から考察させる。
 (4) 単元のまとめではグループワークを取り入れ、学習した各段階におけるイスラームの拡大過程とその要因について理解を深めさせる。

3 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 資料活用 の技能	エ 知識・理解
単元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラームの教義と文化に興味・関心をもち、意欲的に授業に参加しようとしている。 ・発問に対し、自らの考えを発表しようとしている。 ・グループワークに積極的に参加し、課題解決に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム世界の形成について、地理的条件と関連付けて考察している。 ・グループワーク時の地図の作成及び発表を通し、各時代の分布状況を捉え、伝播の時代と地域差について考察している。 ・個人及びグループの考えをまとめ、作成した地図を活用し、発表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物資料から、それらが用いられている背景などについての情報を引き出す技能を身に付けている。 ・イスラームの拡大とその要因について理解し、各時代のイスラームの拡大過程を資料に基づいて作図できる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラームの特徴について理解している。 ・イスラーム伝播の過程と要因について理解している。 ・現在のイスラーム世界の状況について理解している。

4 単元の指導計画（6時間扱い）

時間	学習内容	学習活動	評価規準 (評価方法)
1 本 時	イスラームの誕生	<ul style="list-style-type: none"> ・実物資料である生活用具の利用方法やその背景について考察する。 ・景観写真などからアラビア半島の地理的条件と関連付けて、イスラームの特徴について理解する。 ・イスラームの教えについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アラブ世界の風土とイスラームの特徴を関連付けている（発表・考査）。
2	イスラーム帝国の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラームの勢力拡大とその要因を、地図の読み取りから理解する。 ・ウマイヤ朝とアッバース朝の統治方法の違いを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを活用して重要事項を把握している（提出物）。 ・資料や地図を活用し、イスラーム帝国の特徴について理解している（発表・考査）。

3	東方イスラーム世界	<ul style="list-style-type: none"> トルコ系民族の立てた諸王朝の活動を理解する。 マムルーク朝が拠点をついたエジプトの地理的条件について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを活用して重要事項を把握している（提出物）。 地図等を活用して自分の意見をもち述べている（発表）。
4	東南アジア・インド・アフリカのイスラーム化	<ul style="list-style-type: none"> 西アジア以外の地域へのイスラームの伝播について理解する。 イスラームが主として交易路を通じて伝播していったことに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを活用して重要事項を把握している（提出物）。 資料や地図からイスラームの交易圏の拡大について理解している（発表・考査）。
5	グループワーク 作図・課題設定	<ul style="list-style-type: none"> イスラームの拡大過程を作図する。 現代の国境線の入った世界地図を用い、現在の分布状況と結び付けて考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループワークを通して、イスラーム世界の拡大の要因について理解している（提出物）。 現在の分布状況と結び付けて考えられている（提出物）。
6	グループワーク 発表	<ul style="list-style-type: none"> 前時に作成した地図を用いて、それぞれの時代のイスラームの拡大過程とその要因について発表する。 発表終了後、生徒は地図を全員が見える場所に貼り出し、それらを活用しながらまとめの発問についてグループごとに答えをまとめ、発表する。 生徒は貼った地図に、現在のイスラームの分布状況を示した地図も加え、伝播の時代と地域差についても考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表を通して、イスラームの分布状況、各時代の特徴などについて理解し、自分の意見を述べている（発表）。 イスラームの拡大過程と要因を理解し、自分の意見を述べている（発表・考査）。

5 本時（全6時間中の1時間目）

(1) 本時の目標

- ア 実物資料や景観写真、地図から、アラブ世界の風土と生活について考察させる。
- イ 実物資料からイスラームへの興味・関心を高め、その教えについて理解させる。
- ウ 考察した内容を自分の言葉で表現し、発表させる。

(2) 本時の展開

過程	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を把握する。 発問に対して自分の考えを書き出し、その内容を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心を高めるために、アラビア半島の景観写真や雨温図を見せ、発問する。 「メッカのあるアラビア半島は、どのような風土の場所だろうか。」 	<ul style="list-style-type: none"> アラブ世界の風土に興味・関心をもっている。(ア) (発表) 景観写真や雨温図から地理的条件を読み取っている。(ウ) (発表)
展開	20分	<p>イスラームの成立</p> <ul style="list-style-type: none"> アラブ世界で用いられている衣装を希望する生徒が試着する。 コーラン・キブラコンパス・絨毯など、宗教・生活用具を自由に触れ、アラブの生活文化について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 試着した生徒に感想を述べさせる。 試着していない生徒には衣装を着ている様子について感想を述べさせる。 道具の利用方法について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化圏の生活用具に対して興味・関心をもっている。(ア) (発表) 学んだ内容や触れた道具などから、アラブ世界の風土とイスラームの特徴を関連付けて理解

展 開	15 分	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 P80 の地図を参考にして、ワークシートの地図にメッカの場所の印を付け、位置を確認する。 イスラームの成立について、教科書や板書によって理解する。 資料集 P 1 0 1 を参照し、理解を深める。 <p>イスラームの教え</p> <ul style="list-style-type: none"> イスラームの信仰や他の宗教との違いについて、教科書や板書によって理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 宗教用具については、敬意をもった扱いを徹底させる。 メッカの地理的条件について気付かせる。 発問し、ムハンマドの教えがアラブで受け入れられた背景について考えさせる。 「イスラームの教えはどのようにして急速に広まったのか」 キリスト教やユダヤ教と比較してイスラームの特徴について気付かせる。 	<p>している。(イ・ウ・エ) (発表・ワークシートへの記入確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> 作図によって、メッカの位置と特徴について理解している。(ウ) (ワークシートへの記入確認) イスラームの成立過程を理解している。(エ) (発表・ワークシートへの記入確認) イスラームの特徴について理解している。(エ) (ワークシートへの記入確認)
ま と め	5 分	<ul style="list-style-type: none"> 発問に対して自分の意見を発表するとともに、本時のまとめとしてワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の内容の理解を深めるために発問し、自由に意見を述べさせるとともに、ワークシートに記入させる。 「生活用具を見てイスラームとアラブ世界の暮らしについて、感じたことや考えたことを述べなさい。」 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の活用や意見の発表などを通して、学んだ内容について理解を深めている。(イ・ウ・エ) (発表・ワークシートへの記入確認)

6 本時の振り返り

(1) 仮説の検証

ア 仮説 1 の検証

実物資料として、国立民族学博物館から借用した「みんぱっく」を活用した。「みんぱっく」は世界各国、地域の民族衣装や生活の道具などと、それらにまつわる情報や解説がパックされている学習キットである。検証授業において、男子用衣装・女子用衣装 (①) を着用させたり、コーラン (②)・メッカの方向と礼拝の時間がわかる腕時計であるキブラコンパス (③)・礼拝用絨毯・文字や数字の練習帳・ラクダのミルクパックを生徒に回覧したりした。

①



②



③



イスラームの生活用具の実物資料を通して、イスラームへの興味・関心を高めるとともに、それぞれの生活用具の利用法について考察させ、その背景について探求しようとする態度を養うことができた。また、ワークシートの記入内容などからみて、実物資料を提示したことでイスラームの特徴やイスラームの教えについての理解が促進されたことがわかった。

イ 仮説2の検証

アラビア半島の景観写真や雨温図を活用したり、メッカの場所を地図上で図示させたりすることによって、地理的条件からアラブの風土が生んだイスラームについて考察をさせるとともに、イスラームの教えと他の宗教との違いに着目させることによって、歴史的背景からも考察させることができた。それにより、イスラームが生活に根ざした教えであることについて理解を深めさせ、イスラームが成立した背景やその教えについて総合的に考察させることができた。

ウ 仮説3の検証

実物資料や景観写真、地図などを活用するとともに、イスラームの成立やイスラームの教えなど学習した内容を活用して、イスラームが短期間にアラブ世界に受容されていった理由について自分の考えをまとめさせ発表させた。生徒は「弱者に配慮したから」「信者の平等を実現したから」など、本時で学習した内容を自分の言葉で簡潔にまとめ発表していた。他の生徒の意見を参考にして自分の考えをワークシートに記入させたところ、それによって、さらに本時で学習した内容について理解が深められていることがわかった。

(2) 成果と課題

ア 成果

イスラームに関する実物資料の活用によって、生徒はイスラームやアラブ世界への興味・関心を高め、実物資料から多くの情報を読み取ろうとする主体的な学習態度が見られた。そして、実物資料に触れて感じた疑問を基に学習活動を行うことによって、基礎的・基本的な知識の習得が促され、学習内容の理解を深めることができた。

また、アラビア半島の景観写真の読み解きから、アラブ世界の風土についてのイメージをもたせ、イスラームの成立と地理的条件とを関連付けて考察させることができた。例えば、「生活用具を見てイスラームとアラブ世界の暮らしについて、感じたことや考えたことを述べなさい」という発問に対して、「気候や風土によって文化や考え方が違うのがおもしろかった」「女性用の衣装は、顔まで隠して本当に全身が隠れる。宗教上の理由もあるけど、砂漠や気温がこのようにさせたのかなと思った」など、歴史的背景と地理的条件を関連付け、授業の内容を十分に理解した発言が多く見られたことから成果を見出すことができた。

イ 課題

アラブ世界の風土など自然条件と関連付けてイスラームの成立について理解を深めさせることができたが、産業や流通の社会条件について十分に説明することができなかつた。様々な切り口から、より多面的・多角的に考察させるための授業の工夫が必要である。また、風土が人や社会にどのような影響を与えていくのかなど、より内容を深めた理解を促すためには、どのように資料を提示し、そこからどのような情報を読み取らせるかなど、資料の活用について工夫する必要がある。

生徒が発表を通じて自らの考えを述べた際に、その意見を十分に授業に生かすことができなかった。生徒の発言を臨機応変に取り込んで授業に反映させるためには、柔軟な対応と十分な準備が必要であることが分かった。また、生徒に自由な発想や意見交換を促すためには、誰もが自分の考えを表現しやすい雰囲気作りや発問の工夫も重要であることが分かった。

(2) 実践事例Ⅱ

科目名	地理B	学 年	第1学年
-----	-----	-----	------

1 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

- (1) 単元名 (3) 現代世界の地誌的考察 イ 現代世界の諸地域
- (2) 使用教材 『新詳地理B 初訂版』帝国書院・『新詳高等地図 初訂版』帝国書院
料理及び景観写真ファイル（ICT学習コンテンツ）・自作プリント資料

2 単元の指導目標

- (1) 日本を含む東アジアの地域性に対する興味・関心を高め、現状や課題について歴史的背景を踏まえて多面的・多角的に考察し、探究しようとする態度を養う。
- (2) 東アジアの諸事象を、系統分野の学習成果を踏まえながら空間的な広がりに着目して、環境条件や人々の生活との関係を考察させる。
- (3) 地図や景観写真の読み取り、統計のグラフ化などの資料の活用を通して必要な地理情報を適切に選択、活用する技能を身に付けさせるとともに、考察の過程や結果について、自分の意見をまとめたり発表させたりする。
- (4) 東アジアの各国の地域性を多面的・多角的に考察し、地域を捉える視点や方法を身に付けさせる。

3 評価規準

	ア. 関心・意欲・態度	イ. 思考・判断・表現	ウ. 資料活用の技能	エ. 知識・理解
単元の評価規準	・東アジアに対する関心や課題意識が高まり、地域性を追究する学習に意欲的に取り組もうとしている。	・東アジアの地理的事象を基に、適切な課題を設定している。 ・環境条件や人々の生活を踏まえて探究し、考察している。 ・考察した過程や結果をまとめたり、発表したりしている。	・地図や画像の読み取り、統計のグラフ化、地図化を通して情報を適切に選択、活用している。	・東アジアの地域性を理解し、その知識を身に付けている。 ・地域を地誌的に捉える視点や方法を理解し、その知識を身に付けている。

4 単元（題材）の指導計画（7時間扱い）

時間	学習内容	学習活動	評価規準 (評価方法)
1	東アジアの概論	・自然環境の特色や分布を理解するとともに、文化に見られる共通性と異質性を考察し、地域性の概要を理解する。	・自然環境の特性を理解し、地域性を探究しようとしている（発問・ワークシート）。
2	中国の人口と民族	・中国の人口の推移を統計から読み取り、人口抑制政策に至る背景とその影響を理解する。 ・少数民族の存在を理解し、多民族国家としての中国を考察する。	・人口変化の読み取りと民族分布と自然環境の関連を理解している（発問）。
3 本時	中国の農業生産の地域的特色	・自然環境の知識をもとに、農業生産の特色や地域的区分を考察する。 ・社会体制の変化と農業形態や生産物の変容について理解する。	・農業の地域的特色や変容を、自然条件や社会条件と関連付けて考察している（発問・ワークシート）。
4	中国経済の発展と工業化	・市場開放と経済特区について理解し、「世界の工場」としての発展と、中国経済の変化に伴う社会格差について考察する。	・工業発達の背景を理解し、今後の課題を考察している（発問・ワークシート）。
5	朝鮮半島の自然と生活文化	・朝鮮半島の自然環境をまとめ、衣食住などの文化的特徴について理解するとともに南北の違いを考察する。	・朝鮮半島の基本的な自然・社会環境を理解している（発問・ワークシート）。

6	韓国の経済発展と社会変化	・国の農業の近代化、輸出加工型工業の推進と経済発達について理解する。	・韓国の経済発展と社会の変化、今後の課題を考察している（発問、ワークシート）。
7	東アジア諸国と日本	・アジアという地域について、日本とのつながりや環日本海としての捉え方、協力関係の構築を考察する。	・東アジアという地域を多面的・多角的に考察している（発問・考査）。

5 本時（全7時間中の3時間目）

(1) 本時の目標

- ア 中国の農業生産の地域的特色について、自然環境と関連付けて考察させる。
- イ 景観写真や統計・図表の適切な活用を図り、地理的技能を身に付けさせる。
- ウ 中国における国内の産業形態や人々の生活の変容と、諸外国とのかかわりの変化を、歴史的背景を踏まえて考察させる。

(2) 本時の展開

過程	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	7分	本時の目標を把握する。 中国料理の地域差 ・写真から考察し、質問に対して自分の考えを発表する。	・中国料理の写真から食材を考察させて、地域による食材の差が自然環境や作物の違いに由来することに気付かせるよう発問する。	・地域による食材の差について、興味・関心をもっている。(ア) (発表) ・発問に対して考えをまとめ発表している。(イ) (発表)
展開	8分	中国の農業生産 ・穀物の国別生産量統計から、中国の農業生産が世界に占める割合を捉える。	・グラフから穀物生産量の変化を読み解き、前時に学んだ人口との関連に気付かせる。また自給率や食料の輸出入にも関わることに触れる。	・資料等から穀物生産量の変化を読み取っている。(ウ) (ワークシートへの記入確認)
	8分	自然環境と農作物 ・景観写真から気候を読み取り、根拠を踏まえて気候区分図における位置についてグループで協議し、発表する。	・景観写真を読み取るための着目点を示したうえで作業をさせる。根拠を踏まえて意見を述べさせ、そのうえでグループの意見がまとまるように促す。	・景観写真を読み取り、意見をまとめ発表している。(イ、ウ) (発表)
	12分	農業生産の転換 ・米などの生産量推移の統計でグラフを作成し変化を読み取る。	・折れ線グラフを作成させ、停滞期と増加期の変化と社会の変化との関係について推測させる。	・グラフの作成によって農業生産量と社会の変化について考察している。(イ・ウ) (作図)
	10分	農業生産体制の変化 ・生産責任制の導入を年表で確認し、社会制度の転換と農業形態の変化、農産物輸出の拡大と日本とのつながりを考察する。	・農業生産の推移を社会制度の変容と合わせて時系列の中で理解できるようにする。農業経営における利潤の追求と園芸農業の増加、日本への農産物輸出増加との関連に気付かせる。	・農業生産体制の変化について考察している。(イ、ウ) (ワークシート記入確認)
まとめ	5分	・本時のまとめをワークシートに記入する。	・農産物と自然環境の関連を確認させる。 ・農業と中国の経済発展との関連を確認し、次の工業分野の展開につなげる。	・農産物と自然環境について理解する。(エ) (ワークシートへの記入確認)

6 本時の振り返り

(1) 仮説の検証

ア 仮説1の検証

中国料理は本来であれば実物資料を提示したいが、学校の実情を考えると難しい。よってICT機器を用いて料理の写真を提示することとなったが、料理という身近な素材であったために授業の導入において生徒の興味・関心を十分高めることができた。ここで中国料理の原材料に着目させ、その違いがどのような背景に基くのかを考察させることによって、地域の特色について探究しようとする態度を養うことができた。



《小麦粉の料理》水餃子



《小麦粉の料理》包子



《米粉の料理》陳村粉

資料：中国料理
の写真
写真提供
辻調グループ
辻調理師専門学校

イ 仮説2の検証

景観写真の活用は、地域のイメージをもたせやすく、特に地誌学習では生徒の興味・関心を高めるに有効な教材の一つであり、擬似的に現地の様子を体験させることができる資料としても重要な意味をもつ。生徒に景観写真を読み取らせた上で、情報を追加して与えて生徒たちに新たな疑問をもたせるようにしたところ、その疑問を解決しようとする主体的な意欲が取組姿勢に見られた。次に気候区分図や年降水量の分布と1月の平均気温の線が記入された地図を提示するなど、複数の資料から地域の特徴を総合的に考察させた。

ICT機器を活用することによって、景観写真を大きく見せながら農作物の種類の判断方法や人々の様子など教員が着目させたいところを写真上に直接書き込んで指し示すことができた。生徒の反応もよく、学習内容への関心を高めながら理解につなげることができた。授業後に行なった生徒のアンケートにおいても、「景観写真が提示されて説明を受けると授業内容が理解しやすい」という評価が85%あった。

農業生産量の推移のグラフ化は、数値の変化を容易に理解させるために必要な作業である。生徒自身にデータからグラフを作成させて基礎的な技能を身に付けさせるとともに、作図の中で農業生産量の変化が著しいところがどこであるのか把握させた。そして中華人民共和国の成立から現在までを経済体制に関連した項目だけを記載した年表と照らし合わせ、農業の転換点について判断させることによって、中国農村の経済体制の変化について多面的・多角的に考察させることができた。その上で農業の転換点前後の社会主義経済と自由市場経済の違いや人民公社の役割、生産責任制の意味などについて理解させた。また、中国農業と日本との関連について理解させるために、生産責任制導入後の農業生産高増加に対する穀物生産量停滞の背景について考察させたところ、生徒から「収益性を高める手段として園芸農業の導入が図られた」などの意見がだされた。この授業を通して生徒に、中国野菜の主な輸出先の一つが日本であることを把握させるとともに、自分たちの生活が国際社会と大きな関わりがあることを理解させることができた。

ウ 仮説3の検証

景観写真から気候を読み取り、根拠を踏まえて気候を示した地図上における位置をグループで協議

させ、発表させた。協議中に主体的に活動しようとしなない生徒への対応として、個人で考察する時間を設けたあとに協議に入らせるとともに、プリントでは1つの設問に対して複数の回答欄を設け、自分の考察と協議の結果をそれぞれ異なった欄に書かせる工夫をおこなった。これらによって他者の意見に流されがちな生徒が、自分の考察に取り組むようになった。また、この方法は思考過程の記録が詳細に残せるため、事後の指導や評価にも適している。

グループ協議については、「違った意見を聞くことでいろいろな考えを知ることができる」「自分の考えの間違いを自分で考えることができる」などの意見が挙げられ、グループ協議の学習効果を高く評価する生徒が88%に上った。習得した知識・技能や資料等の活用を通して、主題に沿ってグループで話し合わせることによって、自分の考えをまとめたり、意見を発表したりするなどの言語活動の充実が図られ、表現力を育むことができた。

(2) 成果と課題

ア 成果

I C T機器を活用した資料提示は、学習姿勢に効果を与える方法として有効であった。多種の資料を提示して考察させる学習活動は、生徒の発表の様子やワークシートへの記入内容などからみて、生徒の思考力を育む上で効果があったと言える。経年的な変化についてグラフと年表を結び付けて考察させたり、世界や日本の歴史的事象と合わせて学習させたりすることで、一つの事象を多面的・多角的に考察させることができた。言語活動の充実においては、グループ討議は主体的な活動につなげやすい。表現力を育むにあたり、自分でまとめたことを自分の言葉で他者に伝える機会を多く設定できることは有用な手段であると言える。本時では、料理や景観の写真を活用することで、中国の文化や環境への興味・関心をもたせ、自然環境と人間生活の関係について自ら探究する態度を養うことができた。更に農業生産量の変化と社会制度の変遷の関係について、基礎的・基本的な知識を踏まえ、作図や資料等の活用を通して多面的・多角的に考察させることで、思考力・判断力を培うとともに、発表を通して自らの考えを表現する力を育むことができた。

イ 課題

生徒が主体的に取り組む姿勢を育むためには、生徒が自ら課題を設定できるような発問や「気づき」を促すような資料を、タイミング良く提示していくことが重要である。本時では、田植え後の水田の写真に対して、収穫期が近いはずの8月に撮影されたという条件を加え、新たな疑問を生じさせるという展開を試みた。しかし、写真・資料の取捨選択やファイル作成に多くの時間を要した。「気づき」を重視した発問をいかに設定できるかは常に大きな課題であるが、地理教育界全体でのコンテンツの共有や、その作成、配信の体制整備による教材作成の省力化も、機器の使い勝手の向上とともにI C T教具の普及には不可欠である。

歴史的分野の取り扱いにおいては、地理でどこまで触れるかという判断が常に必要である。多面的・多角的な考察のための歴史的知識をどうもたせるのか、歴史科目と連携して、教育課程に合わせた計画を各校で備えることが望まれる。

自分の意見をまとめ、論理的に説明するなどの生徒の表現力は、個人ごとの差が大きく、また急速な成長も難しかった。生徒の習熟の程度に応じた段階的な指導が必要であり、集団協議や個人での論述の機会を計画的に導入するなどの取組を重ね、継続的な指導体制を構築することが重要である。

(3) 実践事例Ⅲ

科目名	日本史B	学 年	第2学年
-----	------	-----	------

1 単元名、使用教材

- (1) 単元名 (3) 近世の日本と世界 ウ. 産業経済の発展と幕藩体制の変容
- (2) 使用教材 『詳説日本史』山川出版社、『新詳日本史図説』浜島書店
自作のプリント及びICT学習コンテンツ(図表・写真等)

2 単元の指導目標

- (1) 農村を基盤とする幕藩体制が、商品経済の発展に伴って農民の階層分化などを生じさせ、百姓一揆の増加などにより動揺していく過程を理解させる。
- (2) 江戸幕府の統治が動揺していく過程について、欧米諸国のアジア進出と、それによる幕府・諸藩の対応を関連付けて考察させる。
- (3) 幕藩体制の動揺について多面的・多角的に考察させ、史料・年表・地図などを活用して論理的に説明する力を付けさせる。

3 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 知識・理解
単元 の 評価 規準	・近世の政治、経済の変化について関心をもっている。	・日本の政情や社会の変化を、世界の動きや日本の地理的条件を踏まえて考察し、適切に表現している。	・歴史的事象を説明する際、史料や年表、地図などを効果的に活用している。	・幕藩体制の動揺や外国との関係を総合的に理解し、それらの知識を身に付けている。

4 単元の指導計画(6時間扱い)

	学習内容	学習活動	評価規準(評価方法)
1	享保の改革	・徳川吉宗の経済政策 享保の改革がどのような意図に基づいて行われたのか考察する。 経済政策の特色について理解する。 ・風紀の取締りと実学の奨励	・史料やグラフから享保の改革の経済政策を理解している(発問・考査・提出物)。
2	田沼意次の政治と社会の変容	・町人資本の導入 田沼政策と享保の改革との差異について考察する。 ・ロシアとの交易と蝦夷地開発計画 ・社会不安と田沼の失脚 ・百姓一揆と打ちこわし 百姓一揆や打ちこわしの特徴と変遷について理解する。	・史料やグラフから幕藩体制の変容を理解している。(発問・考査・提出物) ・百姓一揆や打ちこわしの原因や変遷を説明できる(発問・考査)。
3	寛政の改革	・風紀取締りと出版統制 改革の目的について考察する。 出版統制の事例から松平定信の海防政策観を理解する。 ・窮乏する武士の救済策 ・都市・農村対策 農村疲弊の原因と、都市への影響を考えさせる。	・改革の諸施策について、相互の関連性を整理できている。(考査・提出物) ・松平定信の海防政策を理解している(発問・考査)。 ・旧里帰農令や人足寄場の必要性を理解し説明できる(発問・考査)。
4 本 時	列強の接近と海防政策	・ロシアの接近 ロシア使節の来航の目的と日本の北方探検の目的について理解する。 ・フェートン号事件 フェートン号事件の背景について理解する。 ・異国船対策の諸法令と蛮社の獄 幕府の異国船対策の変化について理解する。	・史料・地図・年表を活用して、欧米諸国と日本の関わりについて説明できる(発問・考査・提出物)。 ・鎖国政策の行き詰まりについての批判がどのようになされ、幕府がどのように対処したか理解している(発問・考査)。

5	文化・文政期の政治と大塩の乱	<ul style="list-style-type: none"> ・関八州の治安対策 江戸と周辺地域の治安対策の必要性と内容について理解する。 ・天保の飢饉と世直しの動き 大塩の乱と世直し一揆の背景と影響について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世直しの動きとその背景を理解している（発問・考査）。 ・飢饉と世直し一揆の広がりについて、因果関係を整理できる（提出物9）。
6	天保の改革	<ul style="list-style-type: none"> ・風紀取締りと都市・農村対策 改革の目的について考察する。 ・経済・財政政策 ・海防政策 改革と海防政策のかかわりを理解する。 ・雄藩の台頭 西南雄藩の台頭の背景について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天保の改革の目的と結果について理解している（発問・考査）。 ・雄藩台頭の理由と経緯、後世への影響について理解している（発問・考査）。 ・外交と内政の流れを年表に整理できる（提出物）。

5 本時(全6時間中の4時間目)

(1) 本時の目標

ア 幕府の北方開発とロシアの極東進出との関連を理解させる。

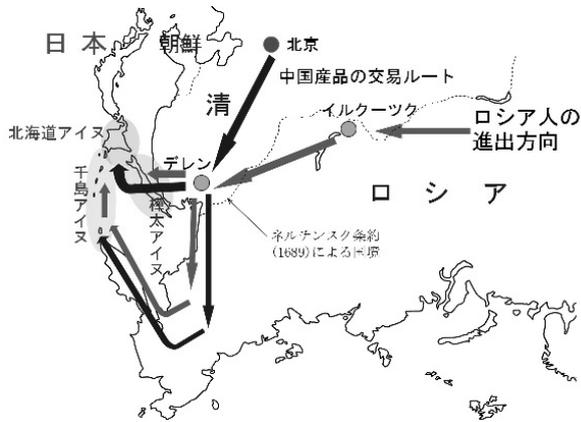
イ 欧米の動向に着目させ、日本の対外政策に転換点がおとずれたことを世界史的視点から考察させる。

ウ 幕府の異国船対策の変化とモリソン号事件から、鎖国の行き詰まりについて理解させる。

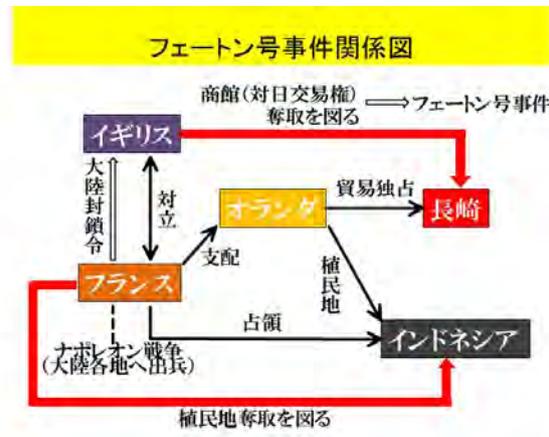
(2) 指導の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習の復習をする。 ・本時の目標を把握する。 ・『三国通覧図説』写本を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「四つの口」と「林子平の著書発禁」について既習事項の知識を確認する。 ・18世紀の欧米の情勢を概観する。 ・『三国通覧図説』写本を提示し当時の国際関係に興味・関心をもたせるとともに、海防について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに学習した知識が定着している。(エ) (発問) ・隣国との関係について興味・関心をもっている。(ア) (発問・観察)
展開	13分	ロシア使節の来航と北方探検 <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア使節の来航の目的と幕府の北方開発の目的について理解する。 ・ゴロウニン事件の背景について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図(資料1)と発問を通してロシアの極東進出について考察させる。 「ロシアはなぜ日本との交易を目指したのか」 ・対外政策の変化について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシア人と日本人の接触が始まる経緯を考察している。(イ・ウ) (発問・ワークシートへの記入確認) ・対外政策の変遷について理解している。(イ・ウ・エ) (発問)
	14分 10分	フェートン号事件 <ul style="list-style-type: none"> ・イギリス軍艦の日本近海への出沒理由を理解する。 幕府の異国船対策 <ul style="list-style-type: none"> ・文化の撫恤令と異国船打払令が出された背景について考察する。 ・モリソン号事件と蛮社の獄について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図(資料2)と発問を通して欧州の情勢を背景とした起こったフェートン号事件について考察させる。 「イギリス軍艦が長崎港に侵入した背景は何か」 ・年表や史料の活用と、発問を通して異国船対策の変遷とその背景について考察させる。 「幕府の異国船対策はなぜ変化したのか」 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェートン号事件の背景を世界史的視点から整理し理解している。(イ・ウ・エ) (発問・ワークシートへの記入確認) ・史料の重要部分に気付き内容を理解している。(ウ・エ) (観察・ワークシートへの記入確認) ・異国船対策の変遷について理解している。(イ・ウ・エ) (観察・ワークシートへの記入確認)

まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめをワークシートに記入する。 ・次時授業内容について把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入させ、本時の授業の内容を整理し知識の定着を図る。 ・次時では幕府の内政の行き詰まりについて扱うことを示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を整理し、知識の定着を図っている。(エ) (ワークシートの記入確認)
-----	----	--	--	--



資料1：ロシアの極東進出



資料2 フェートン号事件の関係図

6 本時の振り返り

(1) 仮説の検証

ア 仮説1の検証

実物資料として勤務校で所蔵している『三国通覧図説』写本を生徒たちに提示した。史料を手にとって本文を読もうとする生徒や、教員にさらに詳細な説明を求める生徒もおり、歴史的事象への興味・関心を高めることができた。また、『三国通覧図説』が記された時代背景について考察し、当時の国際関係について探究しようとする態度を養うことができた。ワークシートへの記入内容から、本時の授業を国際社会の中での日本という視点で考察し、学習内容の理解を深めたことがわかった。

イ 仮説2の検証

ICT機器を活用して、資料1「ロシアの極東進出」を提示することによって、日本とロシア両国の接触に至る経緯を地理的条件から考察させた。資料2「フェートン号事件の関係図」を示すことによって、国際社会と日本との関連を意識させることができた。これらを通して、当時の国際社会での日本について、多面的・多角的に考察させ、日本の鎖国政策が転換期にきていることを総合的に考察させることができた。

ウ 仮説3の検証

世界と日本との関係を考察するような発問を適時行うことによって、習得した知識や年表・地図等の諸資料を通して、段階的に自分の考えをまとめさせ、発表させることができた。始めの頃は、教員の発問に対して、誤答を恐れて安易に「わかりません」と答える生徒が多かったが、段階を踏んで生徒の思考を助けるような発問の工夫によって、次第に自分の考えを筋道立てて述べられるようになっていくとともに、ワークシートにも要点をまとめて記入することができるようになり表現力を育むことができた。

(2) 成果と課題

ア 成果

本時の指導では、実物資料を活用して生徒の興味・関心を高めるとともに、ICT機器の活用により写真や地図等を提示することによって、生徒に歴史的事実に関する基礎的・基本的知識を習得させるとともに、地図や資料等の活用により、日本とロシア両国が接触する必然性を総合的に考察させ、理解させることができた。フェートン号事件の関係図の解説に当たっては、それぞれの国の関係が理解できるように説明し、多面的・多角的に鎖国下の日本と欧州情勢との関連性を考察させることができた。

適時発問をすることによって、習得した知識・技能や年表・地図等の諸資料の活用を通して、国際社会の中の日本の位置付けについて考察させ、自分の考えをまとめさせ、発表させることによって表現力を育むことができた。

また、定期考査において史資料の読み取りをともなう論述を行わせた。問題は、資料1「ロシアの極東進出」、教科書掲載の北方探検図、北海道直轄化の略年表、『赤蝦夷風説考』（現代語訳）、ロシアのシベリア進出に関する説明文の5点を提示して、日本とロシアの関係について200字以内で論述させるもので、提示された資料から必要な情報を読み取って、ロシアと日本との関係について論理的に説明できることを評価規準とした。

以前は、生徒が論述問題を避ける傾向が強く、約50%が無回答であり、設問の要求に対し5割以上の内容を記述できた生徒は約20%であった。しかし検証授業後の定期考査では、無回答は30%に減少し、5割以上の内容を記述できた生徒は約30%と増加した。史資料を読み取って自らの考えをまとめる力を、授業を通して育むことができた。

『三国通覧図説』写本を生徒に見せることによって、当時の国際関係に興味・関心をもたせ、日本の置かれている状況について探究する態度を養うことができた。そして、ロシアの極東への進出やフェートン号事件にかかわる国際関係などの基礎的・基本的な知識と史資料を活用して、日本の対外政策の変遷について多面的・多角的に考察させ思考力・判断力を培うとともに、発表を通して自らの考えを表現する力を育むことができた。

イ 課題

新学習指導要領では、他科目との連携が求められていることから、本時の指導でも世界史での既習知識の活用を図った。生徒は日本史と世界史との関連性を問われることに対して戸惑いを見せていた。生徒が複数の科目に関わる基礎的・基本的な知識を活用できるように、他科目の教員との連携を図り、授業の工夫をすることが課題である。

発問に対する生徒の答えは、教員が論理的な説明を求めている場合でも、単語を発するのみで終わってしまうことがあった。その理由として、生徒の基礎的・基本的な知識が十分でないことや、生徒が自分の考えを十分に表現することが苦手であることが考えられる。個々の生徒の学習内容の習熟度や表現力に応じた発問の工夫が課題である。

本単元に関わる定期考査では、前述の200字の論述問題に加えて、グラフの読み取りを伴う50字程度の短文記述も出題した。後者は70%の生徒が解答し、そのほとんどが十分な内容であった。短文による説明は十分対応できるが、ある程度の分量がある文章の記述についてはまだ苦手意識をもつ生徒が多い。史資料を基にした情報の活用の仕方や、論理的な説明方法などを習得させるための授業の工夫の必要がある。

VI 研究の成果

生徒たちの社会的事象に対する興味・関心を高めるために、様々な実物資料や景観写真、史資料などを活用した。更に教員の効果的な発問によって、生徒に疑問をもたせ、生徒は疑問の解決に向けて学習活動に主体的に取り組んだ。その結果、基礎的・基本的な知識・技能の習得が促進され、社会的事象への理解を深めることができた。

また、科目間の関連を重視し、年表や地図等の資料を活用して考察させることによって、社会的事象について歴史的背景や地理的条件を関連付けて多面的・多角的に考察させ、歴史的思考力と地理的な見方・考え方を培うとともに、学習内容に対する生徒の理解を一層深めることができた。

言語活動の充実については、教育研究員の勤務する学校の実態に応じて、授業中の発表やグループ協議など様々な取組を行った。この活動を通して、これまでに習得してきた知識・技能を活用したり、資料等を説明に積極的に活用したりするなど、生徒の主体的な学習態度が見られた。初期の段階では、自分の考えを相手に十分に伝えることができない生徒も多かったが、回数を重ねることによって、論理的に発表できるようになるなど、表現力を育むことができた。

以上のような授業等の工夫を行うことによって、地図や年表等の資料の活用方法や作図や読図等の技能を習得させ、基礎的・基本的な知識の定着を図り、社会的事象を歴史的背景や地理的条件を関連付けて多面的・多角的に考察する思考力・判断力を養うとともに、習得した知識・技能や諸資料を活用して、自分の意見をまとめ、発表させるなど言語活動の充実を図ることで表現力を育み、国際社会で主体的に生きるために必要な確かな学力の育成を図ることができた。

VII 今後の課題

社会的事象に興味・関心をもたせる教材の開発が課題である。教材の開発に向けて、教員が常に社会的事象に興味・関心をもって情報収集に努めるとともに、東京都教職員研修センターの「学習コンテンツ」や「授業研究ヘルプデスク」を積極的に活用していくことが重要である。

科目間の関連を重視し、年表や地図の活用を取り入れた検証授業を行った結果、歴史学習における地図の活用は比較的容易に取り入れることができたが、地理学習における年表等の歴史的資料を活用するには一層の工夫が必要であると感じた。生徒に多面的・多角的な考察をさせるためにも、教科での連携を図り、資料等の厳選が必要である。

言語活動の充実を図り表現力を高めるためには、生徒の習熟の程度に応じた丁寧な指導が求められる。段階的な発問によって生徒の思考を整理しながら発言させたり、基本的な型を示して当てはめさせたりすることも有効である。他科目や他教科との連携を図り、組織的・計画的に取り組んでいくことが必要である。

また、学習効果を上げるために、中学校との連携が必要である。中学校での社会科教育についての理解を深め、既習事項の整理や指導内容の精査を行うことで、より効率的・効果的な授業の工夫を図ることができる。

平成22年度 教育研究員名簿

高等学校 ・ 地理歴史

学 校 名	課程	職名	氏名
都立一橋高等学校	定時制	教 諭	海上 尚美
都立狛江高等学校	全日制	教 諭	三浦 誠一
都立戸山高等学校	全日制	主任教諭	北村 拓
都立杉並工業高等学校	全日制	教 諭	近江屋 篤史
都立町田高等学校	全日制	主任教諭	◎吉野 領剛
都立八王子北高等学校	全日制	主任教諭	白川 和彦

◎ 世話人

[担当] 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 指導主事 南 和男
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 課務担当係長 小林 正人

平成 22 年度
教育研究員研究報告書
高等学校 地理歴史

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 23 年度第 46 号〕

平成 23 年 6 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画
住 所 東京都新宿区西五軒町 7-10
電話番号 (03) 5228-3451